

NPO 法人 札幌市福祉生活支援センター

社会福祉活動

- 所在地** ● 札幌市北区北 21 条西 3 丁目 1 番 12 号
電話番号 ● 011-726-2829
代表者 ● 代表者 松本 秀秋
従業員 ● 17 人
設立 ● 平成 19 年 3 月
事業内容 ● 経済的困窮者の生活自立と就労の支援、青少年支援、あんしん賃貸支援、障がい福祉サービス 等
URL ● <http://fukushi-life.or.jp/home.php>



テレワーカー

川村 沙耶香さん



テレワークはフレキシブルな働き方を実現するツール

NPO 法人 札幌市福祉生活支援センターでは、日々の活動を発信するため、活動内容の紹介など広報に力を入れるべく、新たにスタッフを採用しました。川村さんは、その新スタッフとして 2017 年 9 月から、エクセル・ワード・パワーポイントによるパンフレット・リーフレットの作成、同センターの広報・事業紹介資料を作成する仕事を在宅で行っています。勤務時間は平日 10 時～18 時の間で週 8 時間の勤務となるよう割り振って仕事をしています。

ご自身はテレワークについて「フレキシブルに働くことができ良い」、「実際に働いてみて、こんな良いツールがあったのか」と感じており、子育てしながら社会とのつながりが持てたり、収入を得ることができている面が、テレワークの効果だと語っていました。

テレワーカー

金田 綾香さん



職場との円滑なコミュニケーションが重要な要素

NPO 法人 札幌市福祉生活支援センターでは、支援員の活動を日報として記録しており、業務の効率化のため、より使いやすい日報書式の提案・作成に関する業務を在宅勤務でできるようにテレワークを導入しました。「在宅勤務可」として求人したところ、子育て中のため短時間勤務の仕事を希望していた金田さんが応募、新たにテレワーカーとして採用となりました。2017 年 9 月から、週 2 日 10 時～14 時の時間帯でエクセルを用いて仕事に従事し、現在は育児と仕事の両立ができていますと話します。また、メール・電話でコミュニケーションをとり、会社からのフォローも重要な要素となっており、十分な意思疎通が図れています。

支援スタッフ

大滝 栄一さん



テレワークにより潜在的人材が活躍する社会へ

NPO 法人 札幌市福祉生活支援センターでは、経済的困窮者、青少年を対象として「就労による自立」「日常生活における自立」「地域社会の一員として充実した生活を送る自立」を目的に、様々な支援活動を行っています。同センターの活動を発信するため、支援員が支援活動を行いながら、ホームページやリーフレットなどを利用し広報に努めていましたが、支援員に負担がかかっているという現状がありました。これらの業務は、自宅でもできると考え、在宅勤務での新規求人をする事としました。

支援スタッフの大滝さんは、テレワークのための業務の切り出しについて当初は不安もありましたが、手探りでやってみて少しずつどういう仕事かテレワークに向くのか分かってきたところだと話します。

在宅勤務の求人をするにあたって、応募がないのではと不安に思うこともありましたが、ふたを開けてみれば 10 人を超える応募がありました。潜在的に働ける人材がこれほどいるのかと驚くとともに、テレワークの普及はこれらの人材が活躍できることにつながるため、非常に重要な取組であると語っていました。

テレワーク導入の概要

- 使用した PC** ● ノートパソコン LIFEBOOK A576/RX (購入価格 約 10 万円)
導入機器 ● カラーレーザープリンター (購入価格 約 8 万円)
通信手段 ● 電話、メール、スカイプなど
業務内容 ● エクセル・ワード・パワーポイントによる広報資料など
実施頻度 ● 週に 8 時間のテレワーク勤務